

# 付 託 事 件 等 審 査 結 果 報 告

平成 27 年 7 月 3 日

薩摩川内市議会  
川内原子力発電所対策調査特別委員会  
委員長 森 永 靖 子

## 1 委員会の開催日

6 月 29 日

## 2 付託事件及び審査結果

### (1) 陳情第 11 号 川内原発の避難計画に関する陳情

本陳情については、まず当局に対して避難計画の進捗状況等に関する質疑があった。

次に、委員間の自由討議により審査を行い、「東京女子大教授が実施した避難計画に関するアンケート調査で、避難計画が十分でないとする回答が多かったことは、不測の事態に対して、住民の中に様々な疑問、不安があるということである」、「アンケート調査の手法によっては、ものの見方が大きく変わることから、一概に調査結果を全市民の声とするのはいかなるものか。5キロ以遠については、まず屋内退避となっていることから、正しく放射能を知ることが重要であり、むやみに避難をあおるべきでない」、「行政としてしっかりとした避難計画を作るのは当然であり、地区コミュニティ協議会等に対する出前講座等で周知を図ることが重要である」、「住民が避難計画に従って行動できるか検証しないと避難計画を作ったことにはならない」といった議論があった。

その後、本陳情の取扱いについて協議したが、起立採決の結果、継続審査とすることは否決されたことから討論に入った。

討論においては、「再稼働については結論が出ており、避難計画は再稼働と切り離すべきである」という反対討論と、「避難計画に対する住民の理解が進んでいないことから、再稼働前に住民説明会を開催することは当然である」という賛成討論がそれぞれ述べられ、採決の結果、起立少数により不採択とすべきものと決定した。

### (2) 陳情第 12 号 川内原発の避難訓練に関する陳情

本陳情については、まず当局に対して避難訓練の実施の有無等に関する質疑があった。

次に、委員間の自由討議により審査を行い、「避難訓練によって、避難計画の実効性を確認しておく必要がある」、「避難訓練は必要であるが、再稼働と切り離すべきである」、「避難訓練の重要性は認識しているが、準備に時間を要するため、再稼働前にというのは厳しい」、「避難訓練は避難計画を見直ししながら、繰り返し行っていくべきである」といった議論があった。

その後、本陳情の取扱いについて協議したが、起立採決の結果、継続審査

とすることは否決されたことから討論に入った。

討論においては、「避難計画を万全に整え、避難訓練を実施することは当然であり、そのことを市民が陳情している」という賛成討論が述べられ、採決の結果、起立少数により不採択とすべきものと決定した。

(3) 陳情第13号 川内原発再稼働前に避難訓練の実施を求める陳情

本陳情については、まず当局に対して福島第一原発事故による子どもの健康被害の状況等に関する質疑があった。

自由討議による意見はなく、その後、本陳情の取扱いについて協議したが、起立採決の結果、継続審査とすることは否決されたことから討論に入った。

討論においては、「陳情のとおり市民の中に不安があるということであり、議会はしっかり受け止めておく必要がある」という賛成討論が述べられ、採決の結果、起立少数により不採択とすべきものと決定した。